

サンポートの怪人

作 築港万次郎

『オペラ座の怪人』のパロディです。
この台本はフィクションで、出てくる人物・団体などはすべて架空です。

序幕

2078年 高松

廃墟(はいきょ)になった香川県立ミュージアムで、展示品処分のオークションが行われている。

競売人「落札！お客様の番号をどうぞ。ありがとうございます。では次は 663 番。

当館最多の入館者を集めたピカソ展のポスターです。県立歴史博物館から県立ミュージアムになった、記念すべきポスターです。5万円から始めます・・・5万・・・6万・・・ハイ、8万で落札です。

マダム滝上さま、ありがとうございます。

次は 664 番、井伊直弼(いいなおすけ)のお姫様が高松城のお殿様・松平頼聰(まつだいらよりとし)との結婚式に持参した茶道具一式です。両家の家紋であるミカンの花とワサビの葉が彫刻されています。30万から始めます。・25万では、・・・20万で・・・もってけドロボウ、千円でほしい人はいませんか」

参加人「レプリカでは、落札する気になれないような・・・」

競売人「茶道具のお買い上げがありませんでした。地下倉庫に放り込んでおきましょう。

次は 665 番です。手回し発電機の形に仕上げた発火器です。平賀源内の代表作品エレキテルです」

裁縫箱大の木箱にはピンクのユリの花が描かれ、上部からは針金が突き出ている。

競売人「ほれ、このとおり今も立派に動きます」

競売人がハンドルを回すと針金の先から、強烈な火花が散った。

競売人「25万・30万・・・40万・・・50万。ドクター田中さま(98才)ありがとうございます、

50万で落札です。まいどごひいきありがとうございます存じます」

田中「エレキテル、これだ。あの人がいつも言っていた、この品はこうして亡き人の懐かしい歴史を今も伝え続けている」

競売人「では 666 番、庵治石(あじいし)で作られたシャンデリアの破片、ひとそろい。

皆様の中には、かの有名な『サンポートの怪人』事件をご記憶の方もいらっしゃるでしょう。

あの奇怪な事件の真相はいまだ謎のまま。シャンデリアはまさにあの惨事で重要な役割を演じたと伝えられています。当方学芸員が修理し、破片を針金でつなぎ、石明かりロードで使われた時のように電気が付くようにいたしました。これでほぼ昔通りの形が忍ばれましょう。

ちょっと明りをつければ、昔の亡霊も逃げ出すことでしょう」

第1幕

第1場

♪ 挿入歌『オペラ座の怪人』にあわせて幕があく ♪

2018年1月15日

新築から間もなく20年を迎えようとする香川県立歴史博物館では、新任館長・佐崎治（58才）が着任し職員たちの前であいさつをしている。

吹き抜けになったホールの天井では庵治石で作られたシャンデリアが輝いている。

館長「私は前任で、香川県立病院の立ち上げを務め、見事成功させました。当館来場者を大幅にふやすため、外科医の田中陽太郎先生(38才)をコンサルタントにお迎えいたしました。2人でがんばりますので皆様の協力をお願いいたします」

佐崎と田中は小嶋主任学芸員に導かれて迷路のような階段を通り、3階展示コーナーへと入った。ちょうどその時、梅松公子が主導する高松城ボランティアガイドの研修会が行われていた。新入りの香西しおり(38才)を含め100人ほどのガイド員が熱心に聞き入りメモを取っていた。

梅松「小嶋学芸員さんが来られました。高松城の歴史を説明してもらいましょう。

ボランティアガイドでは、学芸員の解説を忠実に来園者に伝え案内するようにしてください」

小嶋「けさの毎日新聞に、高松城大型井戸が大川敷地から発見されたとの記事がありました。血屋敷井戸発見の時と同じようにいわくつきの井戸ですので、来園者から説明を求められても、そんなものありましたっけと、とぼけてください」

高松城は讃岐国（香川県）の大名、生駒親正（いこまちかまさ）のために黒田官兵衛の設計で朝鮮出兵の軍港として造られ、そののち高松藩（高松市）主の、松平頼重（よりしげ）が商港都市として大いに発展させた。

小嶋「高松城の歴史には歴代のお姫様の、ふれてほしくない不都合な真実があまりにも多いことは、ガイド員の皆様もよく御承知のことです。高松松平家からは今も多額の協賛金をちょうだいし、城中案内板も寄付してもらっています。とうぜん学芸員は付度（そんたく）しながら、高松城の井戸遺跡を調査しています」

新聞記事がでると、高松市文化財課はあわてふためいた。発掘された大型井戸は、現地説明会を開かず、調査員は土曜出勤してまで、測量と破壊を急いだ。

血屋敷井戸発見の時は3日間現地説明会を催したため、市民から遺跡保存運動がおこり、文化財課と地権者は破壊の工程に手を焼いた。

そもそも井戸をつぶしたら、恐ろしいバチが当たるのは世間の常識である。

血屋敷井戸破壊では県観光課長経験者、文化庁城跡監査官、現場工事関係者等が次々と急死した。

死因のむごさとタイミングに『平将門(たいらのまさかど)の首塚』よりも恐れられることとなった。

小嶋「ガイド員さんは高松城の歴史をさらっと流して、城跡を栗林公園に対抗する玉藻公園として案内してください」

とつぜん展示してある白峰寺 13 重塔が倒れてきて、小嶋は大げがをした。

小嶋「もう嫌だ。やってられない。10 年前から物騒なことばかり起きている。高松城の真実にかかわる研究は一切したくない。歴史系をやめて美術系の学芸員に変わりたいものだ」

梅松「いくら公園にこだわれと言われても、ガイド員がお城の歴史に触れないわけにはいかないわ。

そうだ、しおりちゃんならお城の歴史にかかわる家系だし、良く勉強しているから、小嶋学芸員の代りができるのじゃないの」

しおり「学芸員のかわりだなんて。私はまだまだよ」

梅松「だいじょうぶよ。あなたには歴史のエンジェルが見守ってくれてるんじゃないの」

怪人「ブラボー。おめでとう、しおり。高松城真実の歴史は、エンジェルの指導で今から世間に伝わるのだ」

田中「しおりちゃん、久しぶりだね。血屋敷井戸事件以来かな」

しおり「心配してたのよ。血屋敷井戸の破壊にかかわった方々を、あなたは次々と殺したわ。

まるで井戸のバチが当たったかのように見せかけて。あれからインドへ亡命したと思っていたのよ」

田中「まんまと県立病院に潜り込んでいたのだ」

しおり「わたしも血屋敷井戸の保存を果せなかった一人だし、このたびの大川井戸破壊でも

止められなかったことが悔しい。私にも井戸の呪(のろ)いでバチが当たりそうだわ。このごろ食事のたびにのどがピリピリ痛むのはバチのせいかしら」

館長「いままでどおり博物館でやっていたのでは来館者の増加は望めない。歴史資料の展示品は地下倉庫にしまいこんで、これからはアート作品の展示で集客するのだ。まずは世界レベル級のピカソ展を催すことにします」

歴史資料は申し訳程度の数が、行きにくい 3 階部屋に押しやられ、

館内のほとんどのスペースには、近代美術品が展示されることとなった

香川県立歴史博物館は、美術館を意味する香川県立ミュージアムに名称変更された。

館長「天井のシャンデリアをもう少し上にあげてくれ。さらに左にずらしてみてもうどうだろう」

怪人「讃岐の歴史、香川の歴史、高松の歴史をないがしろにする愚か者め！」

般若（はんにゃ）の面をつけた怪人は、シャンデリアを吊るすロープを刀で切断。

巨大なシャンデリアが、館長の真上に落下した。

ホール全体に、結ばれていた庵治石の粒が飛び散った。

第 3 場

ホールに悲鳴が響きわたるなか、怪人が現れしおりの手を引き地下駐車場へと連れていく。壁面には香川の偉人たちのモザイク画が描かれており、平賀源内(ひらがげんない)の肖像画前まで来ると壁は扉のようにひらいた。

迷路のようなトンネルを歩き、先には沼が広がり、怪人はボートにしおりを乗せて進んでいった。

高松城は郷東川河口干潟に、600m四方で海拔2mの高さの盛り土で造られた人工島である。

城跡の北東端に県立歴史博物館が建てられ、北浜アリー区と呼ばれている。

北西端はサンポート区と呼ばれ、JR高松駅がかまえている。

2人はサンポート区の地下深くに着くと、ローソクの明かりをともしながら、謎めいた洞窟部屋に入った。

しおり「父は死ぬまぎわに言った。歴史のエンジェルが現れ導いてくれると。エンジェルは怪人、あなたのことだったのね」

怪人「しおりがお父さんから相続して大迷惑している、春日川堤防のいきさつを教えてあげよう」

しおり「わたしが一番知りたかった、高松の闇の歴史だわ」

1587年、豊臣秀吉はほぼ日本を手にし、家来で金庫番の生駒親正に讃岐国(香川県)を与えた。さっそく、親正は引田城の建設にかかり、ほぼ完成させていた。

1588年、秀吉はついにアジアの王になる腹を決めた。

軍師官兵衛を親正のもとに派遣し、瀬戸内海を中心に軍船の中継港を設計させることにした。

官兵衛は引田築城を中止させ、高松の場所に日本最大の人口島を造ることにした。

設計を引き受けるにあたり、親正にひとつの条件をだした。

生駒家の家紋御所車紋を、波切車紋(なみきりくるまもん)に変更させることであった。

御所車紋は官兵衛の左足を不自由にさせた、にくい荒木村重が好んでいたからである。

しおり「波切車紋が親正から始まったという、高松城真実の歴史ね」

怪人「官兵衛の家紋を巴藤(ともえふじ)にしたのは、村重に押し込められた牢屋が原因なんだよ」

朝鮮出兵の最前線、肥前名護屋城は官兵衛が設計したスケール最大の城郭だが、

干潟の上に、しかも陸地から3キロメートル離れた海上に、埋め立てで城を造るという発想は、日本人の官兵衛ではさすがにできない。

城郭の総合プロデュースをしたのは、宣教師オルガンチーノであった。

軍港としてスタートさせ、のち商港として発展させるというモデルは、オルガンチーノの出身地ベネチアをモデルにしたのである。

エルサレム攻撃の十字軍中継港として、当時ヨーロッパ最大の繁栄をしていた。

商船が遠くからでも見つけやすいように、天主閣は大坂城並みの巨大さにした。

怪人「敵が本格海城を攻めるにはどうするか、軍艦で360度囲み、大砲・鉄砲・弓矢を打ち込んでくるだろう。

高松城の兵隊はそろばん武士だ。何が得か損かを考えるヘラコイのは得意だが、武道はさっぱりである」

しおり「城の造りは戦うことを考えていないのね。助かる方法は？」

美しい街で商売をしたいという商人の気持ちを満たすため、豪華な建物を官兵衛が設計した。来客は海から来る。城のやぐら、石垣は海から見える北面ぎりぎりに集中している。やぐらは武器庫として使われるのが常識だが、高松城では神頼みをする祈祷所(きとうじょ)である。龍やぐら・うしとらやぐら・しかやぐらなどあるが、それぞれの神を祀(まつ)る神社である。やぐら石垣の隅には、それぞれ神さまのシンボルマークが彫られている。丸のしるしは龍神のマークである。藻が生えた豊かな海を、玉(ドラゴンボール)を持つ龍神が守るという由来から高松城の愛称は玉藻城とよばれるようになった。高松城は『瀬戸内海の真珠玉』である。

怪人「神頼みをしても敵の攻撃がおさまらなかつたら、しおりちゃんならどうする？」

しおり「逃げるしかないわ。だから井戸が 300 か所もあるのね」

商品を並べて売った買ったをする披雲閣の間取図には、たくさん井戸の位置が記されている。玉藻公園陳列館に武具は一つとして無い。代わりにあるのが戦争に備えた非常口案内図である。非常口の目印である井戸の淵石(ふちいし)は、漢字の井の形になっている。城の地下には、井戸から始まる脱出のためのトンネルが複雑にからみあっている。身分によって抜け出る先がことなり、お殿様・お姫様専用トンネルの出口は、海の下をくぐり 5 km 沖の男木島洞窟穴へと続いている。敵が城内に突入するころには、城内 1 万人は丸亀城へと逃げ去るのである。高松藩に唯一流派名がいまも残る武道、水任流はふんどし一丁で逃げるための横泳ぎである。逃げ先の丸亀城での闘い方は、日本一高い石垣からひたすら石を落とす作戦である。敵がいっせいで登ってきたら、二の丸井戸の水を石垣のすきまに流し込むだけで、いっきに崩れるように造られている。

3 日間もちこたえれば、大坂から豊臣秀吉が「いつも貢いでくれてありがとう」と助けにやって来る。

怪人「城の地下は迷宮都市のようにになっている。防水は完璧さ。」

これもオルガンチーノが提案した、トルコの Cappadocia がモデルになっている」

日本には大規模で立派な城でありながら、戦闘を念頭にしない城が 2 つある。

ひとつが「商人さん、いらっしゃい」の高松城。もうひとつは「天皇さま、おいでやす」の、徳川家康が造った京都・二条城である。

親正の美人妻・毬亜(まりあ)は官兵衛の勧めで、熱心なキリシタンになった。

そして 2 人は愛しあい、まぐわった。

官兵衛は毬亜姫のためにマグダラのマリアを祀る天主閣を建てた。

干潟の中に立つ教会、それはまるで日本のモンサンミッシェルである。

キリスト教が禁止されているので見かけは普通の天守だが、中に入ると

地下 1 階から地上 2 階まで吹き抜けになっていて、中央には礎石のような岩が十字架状に並べられ、中央の岩はマグダラのマリア、東隣の岩はイエスキリストとして置かれている。

西向きにすえられた粗末な 13 段の石段と鞆橋(さやばし)は、イエスキリスト復活の物語が

コンセプトになっている。

しおり「天主台の刻印石は丸にクルスと、十字架だわ。マリアとイエスの
シンボルマークだったのね」

怪人「天主閣の手前に井戸がある。非常口の井印ではない。立方体・四角印である。

城内はどこを掘っても海水がわく。たまたまこの井戸からは真水がわいた。神様にお参りする時はみそぎをする。

この聖水井戸を基準にして、天主閣を建てる位置が決まった。

高松藩兵士が兜につける合印（あいじるし）は三の丸みそぎ井戸の四角形である」

しおり「官兵衛と毬垂の不倫を親正が知ったら大変なことになるわ」

怪人「ばれないようにと天主閣最上階には、親正が信じる龍王をお祀りする部屋にして、
屋根のしゃちほこを龍の顔にしたのだよ」

しおり「エンジェル、先生、教師。あなたはだれなの？ どうして仮面をかぶっているの」

しおりは怪人の仮面をはがした。醜い平賀源内の顔があらわれた。

怪人「バカモノ、なんてことをするんだ。ただれた顔を見て面白いか。火浣布(かかんふ)の防火実験で
失敗したときのやけどの跡だ」

第2幕

第1場

高松駅入り口には高松をゼロから造った、偉大なる夫婦が向かい合う像がすえられている。

剣の体形をした黒い像は生駒親正である。手には信仰する龍王を表す丸玉を持つ。

女杯を着た赤い像はその妻・毬垂(まりあ)姫で、キリスト教アークの立方体を抱いている。

香川で今も根強い龍神信仰は、弘法大師空海から始まる。

中国長安・青龍寺で学んだ空海は、日本で龍王伝説を広めた。

三谷池の巨大な青蛇が、大滝山から天に昇り3本指の龍王となる。

龍王が住む場所が、扇形をした讃岐平野の要にあたる龍王山である。

生駒親正は龍王信仰をさらに拡大した。高松城二の丸の庭に、枯山水で海と滝を作る。

海には多くの鯛が泳ぎ、滝をのぼって龍神となる仕掛けを作った。

龍神はお城関係者の背中に取りつく。行いが良ければ守り神となり、悪行をすればお仕置きをするのである。

さらに龍神信仰は進化し、高松発展の祖である松平頼重は栗林園に赤壁の滝を作り、

池を泳ぐ鯉が龍神になる仕掛けをほどこした。

こちらの龍神は町人・商人に取りつく。龍神たちを取り仕切るのが龍王である。

現在日本では人口減少に対応するため、中心市街地の再開発が活発である。

高松はその優等生として、国から巨額の援助を受けて、

城跡周辺の再開発事業がいきに進められている。

開発を監視するかのようになり、2017年、親正の霊が甲冑（かっちゅう）とともに秋田から高松に戻ってきた。

再開発事業関係者には龍神が取りつく。

事業と並行するように、栗林公園の池からは3,000匹の鯉が突然消えた。

園の発表では野鳥に食われたと説明するが、1メートルもある錦鯉を一気飲みできる鳥がいるとすれば教えてもらいたいものだ。

鯉は滝を駆けのぼり紫雲山上空で龍神となって、お仕置きの手を探しているのだった。

しおり「お城のガイドをしているから、私もお城関係者かしら」

怪人「そうだよ。鯛が化身した龍神に取りつかれているの見えるよ」

第2場

2018年

オールド高松とは空襲で焼滅した旧市街のことである。

オールド高松のにぎわい町づくり事業は、丸亀町商店街再開発から始まった。

掘り返した地中からは、高松城遺跡が続々と出現した。

血屋敷井戸に続き亀井戸遺跡が発見されたが、地権者はすべて根こそぎ破壊した。

県民市民は念願の天主閣復元を目指したが、境界石をさわったため、天主台の復元だけで終わった。

代替えとして桜御門の復元でとりつくろったが、ここにも境界石が仕掛けられていたので、関係者には事故が続いた。

2018年11月15日、朝日新聞全国一面版に『呪われた高松城』という大見出し記事がおどった。

しおり「桜御門の石垣は昭和20年7月4日の太平洋戦争高松空襲の証人なのに、門を復元したら焼け跡が見えなくなり、歴史の真実が隠されてしまうわ。

龍神様は怒るに違いない。わたしにもバチが当たらないか心配になってきたわ」

かつてしおりは血屋敷井戸破壊の因果で胸に3つ目の乳房ができ、

亀井戸破壊では子宮がんになった。

おびえたしおりは遺跡の保存活動をすることを誓い、龍神に許しを乞うた。

第3場

2019年6月

サンポート地下洞窟には病室がしつらえられ、手術台には食道がんになったしおりが横たわっている。

田中「もう大丈夫だよ。怪人が手伝ってくれたので、全摘手術はうまくいった。

あと1センチ上のがんが広がっていたら、声がなくなるところだったよ」

怪人「バチを恐れて、がん検査を早くしたのがよかった」

体のいたるところに生命維持のチューブが差し込まれて、苦しむしおり。

怪人は正体を田中に気づかれないように、おかめの面をかぶっていた。

怪人「痛かったらモルヒネを増やしてあげるよ」

田中「モルヒネはケシの花から作られる。

ケシの品種改良をして良質なモルヒネができるようになったのは、平賀源内のおかげだ」

植物学者の源内は高松藩 5 代城主・松平頼恭（よりたか）の依頼で栗林園内に

最も高く売れる薬草・ケシを育てアヘンを製産し、藩の財政を助けていた。

ケシは今も昔もトップシークレットである。松平家博物図譜にあえてケシは無い。

城から源内の実家につづく牟礼街道は種物屋街道ともいわれ、ケシを扱う店が集まっていた。

敗戦まで、高松には世界一のケシ畑が広がっていた。

マッカーサーの禁止令でケシ畑は消えたが、すぐに代替えのタバコ畑となり、専売公社たばこ工場ができた。

そしてタバコも嫌われ、工場は閉まり跡地には、人口高齢化にそなえて香川県立病院が建設された。

畑は住宅地へと変わり、マンションが乱立した。

田中のおかげで、食道を胃管に置き換えた難手術は成功したが、

予想された合併症が次々としおりの身をおかした。

体力は衰え、死んだほうがましだと思えるまでに追いこまれた。

しおり「やさしい怪人さんの指導で、もっともっと勉強してお城の真実を伝えていきます。

どうか龍神さま、私を見捨てないで。バチが当たるのは私じゃないはずよ」

あい前後して高松市役所観光課長巢名氏(50 才)、まちづくり課係長山口氏(43 才)が突然死した。

両課は遺跡を守るために活動しなければならない重要部署である。

怪人「龍神を怒らせるな、龍王を怒らせるな。人々よ、悪行を改め善行を積み重ねるがよい」

第 4 場

12 時間かけたブラックジャック級の大手術から 50 日目、

しおりはようやく退院できる体調になった。

田中と滝上に付きそわれて、洞窟病室を出ることができた。

地上にあがるまでには、広大なサンポート地下駐車場をとおり地下駐輪場をぬけて、

どうにかやっと高松駅前広場にたどりつくことができた。

広場の植樹には香川の県木・オリーブ、高松の市木・黒松が使われている。

地表中央には色タイルで、方位を示す羅盤(らばん)の図柄がえがかれている。

東西南北 16 方位には玉状の石材が、龍神へのお供えとして 2 周にすえられている。

内周 16 個の玉はお城関係者を守ってもらうため、外周 16 玉は城下町の繁栄を願うためである。

龍神は玉を食べて、おそなえしてくれた人を助けるパワーにするのである。

北方位にはマグダラのマリアを象徴する、ピンクのユリの花模様が

なまめかしい女性器のデザインで描かれている。

JR 駅前広場は、強い龍とやさしいマリアがオールド高松を守るパワースポットである。

しおり「怪人は私に『オールド高松真実の歴史』を教えるために、

亡くなったお父さんがつかわしたエンジェルなのね」

田中「しおりちゃんをたぶらかすやつは誰だ。怪人の正体はだれなんだ」

滝上「怪人は 290 歳になった平賀源内よ。自分の育てた長寿薬草で長生きしているの。

源内が万能天才として活躍できたのはアヘン覚醒のおかげ。

高性能発火器エレキテルの改良にこだわったのは、アヘンをおいしく吸うためよ」

田中「なるほど源内の肖像画が、キセルをくわえてうつろな目をしているわけだ」

滝上「吸いすぎたのがまずかったの。発狂して人を切り殺してしまったの」

しおり「1779 年、源内さん 51 歳のときね」

滝上「牢屋で死んだことにして、親友の田沼意次(おきつぐ)が助け出し、高松城地下へ逃がしたのよ」

田中「そうか、サンポートの怪人の正体は平賀源内だったのか」

滝上「薬草で寿命が延びたといっても、不老不死は無理。

怪人源内はしおりちゃんを跡継ぎに選び、オールド高松の不都合な真実を
すべて伝えたがっているのよ」

田中「病気治療にはストレスが一番悪さをする。学芸員や郷土史家が触れようとしない

結界石の呪いをあばくことは、しおりちゃんの体に悪い。

食道がんの 5 年生存率は、たった 30%。

ぼくと結婚してニュージーランドでのんびり暮らそうじゃないか。

ルピナスの花が満開になる湖畔の絶景は、まるで世界の中心だよ」

滝上「世界の中心で、愛をさけぶ場所はオーストラリアだと思ってたけど、

ニュージーランドだったのね。まあ、お隣の国だからいっか」

高松駅の緊急連絡スピーカーから、怪人の怒りの声がうめいた。

怪人「私の宝物に手を出すやつ、無礼な若造め！ 愚か者め！」

しおり「エンジェルの声が聞こえる。姿をあらわして、私を包んで！

高松城天主閣と、春日川堤防の不都合な真実を教えてください」

怪人「おいで。鏡に向かって瞳を凝らせば、私がいるのだ。

その中へ、下へ地下へと行こう」

第 5 場

怪人はしおりの手を取り、再びボートを漕ぎ、怪人洞窟へ連れ込んだ。

岩をけずった室内には古文書が積み重なり、源内の発明品が場所せましと散らかっている。

怪人「私の跡継ぎはしおりしかいない。今ここで私の知ることをすべて伝えることにしよう」

しおり「真実を知ることが、私は恐れはしない」

般若の面からおたふく面にとりかえた怪人は、しおりに不都合な真実の要点を教え始めた。
怪人「天主閣の復元をするならば、マリアと龍王をおまつりする、日本唯一の天主閣でなければならぬ。どこにでもあるような天守閣の構造では、関係者に最大のバチがあたるのだ」

(歴史その1)

1592年、秀吉は高松城の完成をまちかねたように、15万人の兵隊を軍艦に乗せて大坂を出発させた。親正は海軍なので、5,000人の兵と共に50隻で高松から釜山に向かうことになる。
官兵衛が親正と共に軍船に乗り込もうとすると、涙なみだで別れがづらい毬亜は、官兵衛に手料理を食べてもらい、元気で活躍してもらうことにした。
さぬき名物釜あげうどんである。おいしいおいしいと8玉ペロリ食べ終わった官兵衛は、からになった器を毬亜の形見にすべく、頭にかぶった。
黒田官兵衛のきてれつな兜(かぶと)は、讃岐漆器のうどん鉢である。

戦い終わって官兵衛はうっかり、うどん鉢をかぶったまま大坂の秀吉に戦果報告に行った。
女ごころにはピンとくる秀吉は、讃岐美人姫との関係を疑った。
不倫がバレたら大事件になる。
さすが頭のいい官兵衛、とっさに見事な言い訳をした。
「これは聖書の不死の力を与えてくれる聖杯で、おかげで無事もどれました」・・・との説明でどうにか切り抜けた。
それからはうどん鉢がはずせなくなった。中津城にもどると妻の光(てる)も不倫をうたがった。
官兵衛は光をキリスト教に誘うが、光は毬亜への嫉妬で決してキリシタンにはならなかった。

親正は捕虜100人馬数十頭を、うばった3隻の亀甲船につめこんで凱旋した。
加藤清正ら大名も多くの捕虜を連れ帰るが、その人材は町の産業を発展させる職人たちである。
高松城は朝鮮出兵の瀬戸内海中継軍港としてスタートし、戦争が終わると港湾商都に変身し、商売でかせぎ、大判小判を秀吉にみつぐ役目をおった城としてつくられている。
そのために連れ帰った捕虜は、商人を接待するコンパニオンにするためであった。
親正好みの若くて美人、教養の高い女性たちだった。
これは今なら、捕虜(ほりよ)とは言わず拉致(らち)である。

イヤイヤ連れてこられてはお酒のお酌も、夜のおつとめもままならない。
そこで大陸の大型馬の出番が来る。商都に軍馬はいらない。馬の出番は化粧をして着飾った『かざり馬』の、強烈交尾ショーで接待をもりあげるためだ。
うぶな娘のこことて、頭ではイヤイヤでも体は濡れるのだった。
夜の部の接待をした場所が、御殿入口・桜御門の目の前にある桜の馬場である。
桜の馬場で馬が走りまわったら、砂ぼこりが御殿を襲い、たまったものでない。

いつの世も疫病は海外からやってくる。親正は朝鮮で病気をもらい、帰国後毬垂にうつし、毬垂は官兵衛にうつした。

官兵衛の晩年は狂気する。死因は性交でうつる疫病・梅毒であった。

学芸員は公務員だから、これらの不都合な出来事を子供たちに解説するのはやりづらい。

生駒時代 54 年間は、ほとんどの出来事が歴史からスルーされている。

1621 年、生駒 4 代目城主が秋田八島町へ 1 万石で左遷されると、讃岐国の領地は高松藩 12 万石、丸亀藩 5 万石へと 2 分割された。

(歴史その 2)

1642 年、松平頼重(よりしげ)が高松藩初代城主として着任する。

頼重の父は御三家・水戸藩主・徳川頼房(よりふさ)、おじいさんは将軍・徳川家康(いえやす)である。

6 才年下の弟が水戸藩主 2 代目、水戸黄門こと徳川光圀(みつくに)である。

家康は跡継ぎ問題のゴタゴタを嫌い、儒教を重んじて男系男子・年の順をしっかり守らせた。

3 代将軍は弟よりかなり能力が劣っていたが、春日局(かすがのつぼね)の力添えもあり、生まれた順番をまもって家光に決まったいきさつがある。

6 才年上の頼重が徳川頼重になれなかった理由は簡単で、頼重が女で生まれたから相続の資格が無かったのである。

頼重は 18 才のとき父に「私にもお城ちょうだい」と、男まさりにせまった。

家光と同じ、LGBT・トランスジェンダーであった。

頼重をかわいがる父はしかたなく、茨城下館(しもだて)城を与えるが、頼重は満足しなかった。

20 才代になり「もっと大きなお城をください」と、ときの将軍・家光に泣きついた。

家光は大奥に閉じこもったまま、出てこようとしない。

代わりにあらわれたのが春日局である。

家光と同じ、性に悩む頼重に同情した春日局は、女がバレないことを条件に、からになった高松城を頼重に与えた。

同時に女の秘密を守るため、家康由来の忍者集団をつけた。

松平頼重は高松城に来てびっくりした。

想像以上に大きくて美しい、天主閣がそびえ建っていたからだ。

「春日局さま、ありがとう」頼重は感謝をこめて古川という川の名を、春日川に変更した。

城のすぐ東沖には、頼重が愛する源義経(みなものよしつね)が名をあげた源平屋島古戦場がある。

小舟をこいで屋島一周をしようとするも、生駒時代に埋め立てが進み、屋島が島でなくなっていた。

頭にきた頼重は近くの住人を呼びつけて、その日のうちに屋島を大地から切り離した。

掘りもどした場所が相引川(あいびきがわ)と呼ばれる、世界で一番狭い海峡である。

高松城の水源である栗林園視察では、警護の忍者集団は、頼重が女であることが家来たちにバレないように、顔が見えないように松の枝をせんでしている。

怪人「忍者集団は明治になり秘密結社・玉水会(ぎょくすいかい)と名を改め、現在も産官学の重要部署にもぐり込み、オールド高松の不都合な史実を知った者に、きびしい制裁を加えているのだ」
しおり「私が春日川私有地堤防を持たされて、苦勞させられているのは、玉水会の悪質な仕業なのね」

(歴史その3)

生駒家が格下げされて高松から秋田へ追いやられると、生駒家臣のほとんどを頼重は引き受けることになった。

げげんな顔で迎える家来たちと距離をとるため、住居区の二の丸はしっかり多門やぐらで囲み、男子禁制の大奥造りとした。本丸天主閣へは頼重のみが行き来できるようにした。

二の丸敷地が周囲より 2メートル高く盛られているのは女頼重が大切にすする豪華着物を高潮浸水から守るためである。

城の拡張をはかろうとして北面石垣をいじると、結界石があらわれた。

要所 16か所に結界があり、龍神が悪霊から守っていることがわかった。

うかつに手をつけられない城であることを頼重はさとった。

渡りやぐらの結界石をつぶさぬように、月見やぐらを建てた。

やぐらの役目は月の観察をして陰陽・風水・八卦に頼るためである。

以後、松平家は高松城にはほとんど手を加えず、生駒家が作った当時のまを保ってきた。

頼重が女であることが絶対バレないようにと、ほんらいなら光圀の跡を継いで

水戸徳川家 3代目になるべき光圀の長男が、養子で高松藩 2代目城主としてやってきた。

DNAの継続を保つためである。名前の頭には代々男系らしく、頼の字を引き継いだ。

引き継ぎが代々うまくいったのは城主の力よりも、その妻たちがすごい家柄の出で、殿様を裏方で自由にあやつっていたからである。

そのなかでも際立っていた奥方が、11代城主・頼聡(よりとし)の妻・弥千代姫で、幕府大老・井伊直弼(なおすけ)の娘である。

11代城主は血筋の順番では松平頼該(よりかね・左近さん)が継承すべきであったが、妻の力で頼聡が城主の座をうばった。

桜田門外の変で、水戸藩浪人に直弼が暗殺されると、尊王攘夷派の左近(さこん)が中心となり、弥千代姫を離婚させ、花嫁道具すべてと共に実家がある彦根へ追い返した。

直弼が明治天皇から、アメリカと仲良くした罪を許されると、

弥千代は名前を千代子と改め、まんまと頼聡との復縁をはたしたのである。

そして左近身边に衝撃が走る。子供 7人が次々と毒殺され、最後に残った娘も結婚式前日に 13才で死んだ。

左近自身も 1868 年、忍者衆に殺され左近の家系は耐えてしまった。人望の厚い左近であったので、今もなお、菩提寺・本覚寺で丁重にとむらわれ、讃岐銘菓『左近』が茶人に愛されている。

(歴史 その4)

平賀源内 20 代のころ、身分は足軽だったが、高松藩の役人として大いに活躍する。

5 代目城主・頼恭（よしたか）も養子縁組で水戸から高松に来たよそ者なので、家老たちの横柄な態度にうんざりしていた。

頼恭は博識な源内をかわいがり、たびたび相談を持ちかけることがあった。

キリスト教の取りしまりが増し、高松には幕府の隠密がしょっちゅう出没するようになった。

源内は長崎出張のとき、南蛮知識をスムーズに得るため隠れキリシタンになり、

キリスト教の秘密を守るフリーメイソンの日本団長になっていた。

源内の実家へはたびたび宗教確認調査がはいっているが、正体がバレることはなかった。

松平家は仏教・龍神信仰なので、生駒毬垂が城に残したキリスト教の痕跡を消すことに苦労した。

世間では天主閣のことを、異教の南蛮造り教会だとのうわさがたっていた。

頼恭はキリスト教隠しを、源内にまかせた。源内は天主閣の石段から手をつけることにした。

あえて西側につけられた 1 3 段の自然石階段は、

十字架をかついだイエスがゴルゴダの丘ではりつけになり、オリーブ山から天に昇ってキリストになるという受難の道・ビアドロローサをイメージしたものである。

西方浄土を信じる仏教建築の入口は日没にあわせた東向き、あるいは南向きに作られる。

西入口にするのは、日の出に合わせてステンドグラスの輝きをあびる教会の特徴である。

2 段折れの石段をおおい隠すように、正確に加工した長尺石を自然石の上にかぶせた。

天主閣地階内部へは砂を投入して、十字架状の礎石と 4 本の天蓋(てんがい)支柱を隠した。

本丸にある地久(ちきゅう)やぐらと、かねのやぐらの名称は、球を描くコンパスと

石工が使う物差しのこと、源内がフリーメイソンのシンボルマークで、天主閣を守るために配置したものである。

シンボルマークにある中央の G は、源内 Gennai の G である。

近年の地久やぐら改修工事では、やぐら台の中から 5 個の石で組まれた、天主台にあるような十字架状石が発見されたが、不都合な真実をいやがる玉水会によって処分されてしまった。

仕方なくフリーメイソンは元の位置に、イミテーションの石を配して復元を終えた。

源内は気になる天主閣の呼び方を、一般的な天守閣に変更すべきかどうかで迷った。

最上階の作りが松平家の信念にしている龍神信仰の祈祷部屋でもあることだし、

織田信長の安土城や、明智光秀の坂本城も天主閣と称していたので、

高松城の天守がキリスト教つながると、うたがわれることはない天主閣をとおすことにした。

南蛮造のうわさも、小倉城天守の外に突き出た外壁形式と同じだと説明することにした。

高松城に出入りする商人は船からよりも、丸亀町商店主を中心として城下町から陸路で来城することが増えた。

頼恭は城の正門を水手御門から旭御門に変更し、設計・監督を芸術家の源内にたのんだ。

生駒親正時代の石積み工法は、拾った石をそのまま積みあげる『野づら積み』であるが、源内の時代には技術が進み、加工した石をパズルのように隙間なく積む『切りこみはぎ』ができるようになった。

一部に手抜き工事のように見える『打ちこみはぎ』の個所があるのは、門柱で見えない部分を強度の問題がない程度にコストダウンをしているのである。

ます形は敵を迎え撃つ城郭(じょうかく)の造りであるが、高松城に来るのは平和な商人である。

旭門ます形は仕事始めの商人を迎えて、ウエルカムドリンクで朝の部の接待をする茶室である。

用途不明とされている埋め門は、茶室のにじり口をイメージしたものである。

アーティスト源内は、ます形石垣の北面にパズルで商人がよろこぶ繁栄と長寿の生き物、亀の絵を20匹描いている。商人の眼力を見極めるためである。

西面には千利休(せんりのきゅう)が商売のコツを教えた『一輪の朝顔』の逸話を、すべて直線で組まれたパズル石接合面の中に、一か所だけ曲線を入れて表現している。

さらに鏡石(かがみいし)を中心にして、来城者が持ち込む疫病を防ぐためのしかけをしてあり、アマビエに代わるモクズガニが描いている。

漢方医源内はお城のまわりにうじゃうじゃいる、モクズガニをすりつぶした液体を疫病患者に塗って治していた。

滝上「わたしは子供のころハシカになって、お父さんがモクズガニを肌にしりこんでくれたわ」

源内は旭橋を冬至の日の出の方角から、天主閣の方角に向けて斜めにかけた。夜明けの開門を待つ商人が、太陽をあびて光り輝く天守閣に感動する仕掛けである。

小嶋主任学芸員は玉水会の一員である。旭橋が斜めにかけている理由を、

敵を効率よく斜めから攻撃するためだと真顔で説明している。

引潮時間になれば干上がる、防御能力のない堀にかけられた橋を、わざわざ狙われるために渡る敵はいない。

学芸委員が話す説明は、ウソでも正解となってしまうことが悲しい。

6場

オールド高松の歴史は、3つの時代で分けることができる。

1 生駒時代 (1588年、ころは桃山時代)

豊臣秀吉の金庫番・生駒親正が、郷東川河口の干潟(ラグーン)にゼロから人工島を造る。

人口島に建てられた高松城の内には1万人が住み、都市機能がすべてそろっていた。

2 松平時代 (1642年、ころは江戸時代)

春日局から高松をもらった松平頼重は、河川堤防・上水道の都市整備を整え、丸亀町を中心にした城下町を大いに発展させた

3 中野時代（1888 明治から現在まで）

渋沢栄一の懐刀・中野武嘗(ぶえい)が、消滅しかけた讃岐国を香川県として独立させた。
オールド高松は、中心市街地再開発事業で更なる発展をする。

讃岐平野は四国山地に降った雨が激流となって、北面に真砂土が広がる四国最大の扇状地である。
河川は台風の大雨ごとに絡み合い、平地には安心して住める場所はなかった。

生駒時代に西島八兵衛が禹王(うおう)の神力を借りて、高松のいくつかの川に堤防を築き、
洪水氾濫から城と町を守った。

松平時代になると堤防で制御された川は天井川となり、地盤沈下とも重なり、オールド高松は海抜ゼロメートル地帯となった。高松の地盤・プレートは毎年5ミリずつ下がっている。

土塁で造られた堤防は台風の高潮でたやすく決壊し、甚大な被害が毎年繰り返された。
源内がお城勤めをしていたころの災害は特にひどかった。

疫病が蔓延し、大火に見舞われ、地震が堤防をくずした。

怪人「財政難におちいった城主・頼恭殿は私に泣きつき、解決策を求めてきた」

疫病封じを鏡石のモクズガニがにない、大火の火消しでは火浣布で身を守らせた。

決壊した堤防を地先地主に売りつけて管理修復を押しつけ、高松藩は責任逃れをした。

しおり「藩が責任をもつべき堤防の維持を、農民まかせの私有地にしたのは源内さんの悪知恵だったのですか。許せないわ」

堤防が民地になっているのは高松では当たりまえのことであるが、全国にはない。

高松の常識は、日本の非常識である。

おとなり丸亀藩であっても、堤防を民間に払い下げるといふ愚策はしていない。

昭和44年、建設省が国道11号線北バイパスに新春日川橋を架けるときの、

堤防に民地があることを知らない国は、しおりの堤防を取り込んでしまった。

土地境界が確定すると国は不正を認め、すみやかにしおりから適正価格で収用した。

高松藩の権利義務を受け継いだ香川県は、春日川が県管理の2級河川なので、

あちらこちらに散らばる民堤を急いで収用して、南海トラフ津波に備えた堤防補強工事を国の補助金でしている。

香川県高松土木用地課長・藤原二郎は、しおりと県河川課が境界確定をするためにしていた合意事項を無視し、収用価格を問答無用で1㎡あたり400円(1坪1320円)で決めた。

不当な安値のため、しおりは県への売却ができなくなってしまった。

堤頂道路の現状と謄本図とが一致しないのは、旧謄本に記載された地積を増減しないで境界線合意をするために、県河川課が測量士を指導した苦策の結果である。

怪人「オールド高松にある河川堤防の半分が民地になった歴史を調査するしおりを、藤原用地課長はき

らっているのだ。藤原課長は、高松の不都合な真実を隠す玉水会の会長だ」

藤原用地課長は不可能と思われた新高松空港の用地収用で、期日に楽々間に合わせた実績があり、天狗になった藤原を恐れて県庁河川課は、しおりとやりとりした合意事項を県高松土木藤原用地課長に伝えることができなかった。

藤原課長が提示した 400 円の根拠は、アメリカ進駐軍の農地解放政策を引き継いだからである。塩田や山林は対象外であったが、田畑は地主から小作人にタダ同然で売り下げられた。

しおりの香西家からは 6 町歩の田んぼが小作人に渡った。

高松の堤防は高松藩時代から田んぼの続きとしてあつかわれてきたので、藤原課長は全国に例のない民提の価格を、タダ同然の 400 円と決めつけたのである。

しおり「県には不動産取得税を、市には固定資産税を払っている私の堤防が、タダ同然の価格評価では納得いかないわ」

まもなくの南海トラフ津波では春日川河口堤防の決壊が予想されているが、県高松土木が堤壁に多数の水抜穴をあけたしおりの堤防は、収用作業が進まず補強工事がなされないままである。

平成 16 年、県はサンポート地区に、不吉な鬼門の方角に向けて四国で一番高い 30 階建てのシンボルタワーを竣工させた。同年台風 16 号がおそい、高潮で海水が栗林公園あたりまでおしよせた。

築城から 430 年がたち地盤は約 2 メートル沈下して、海拔ゼロメートルになっていた。

オールド高松は日本のベニスというよりは、日本のアムステルダムというべきかもしれない。

水位が限界まで上がったしおりの堤防からは、水圧で水抜き穴から海水が堤内に

滝のようになって吹き出し、内部の盛り土が吸い出されてスカスカ堤防になった

あわや決壊寸前だったが、先に春日川上流が氾濫したため、しおりの河口域堤防は助かった

田中「個人では役所に勝てない。大川井戸は高松市役所が所有する土地だ。重要遺跡であっても市道拡幅工事の邪魔となれば、さっさと破壊してしまった。

井戸のバチがあたって多くの死人が出て、役所はそんなの迷信だととりあうしまもない」

洞窟部屋を探しあてた田中が現れ、怪人からしおりを引き放そうとする。

田中「民堤解消の相手は香川県庁という巨大役所だ。しおりちゃんが勝てる相手ではない」

怪人「何を言うか、田中の坊や。民堤の不都合な真実を全世界に知ってもらうことで高松に関心が集まり、インバウンドの発展につながるのだ」

しおり「知ることがいいの？ 知らないことがいいの？」

田中「しおりちゃん、悩まないで。ストレスで食道がんが再発するよ。ボクといっしょに

ニュージーランドで結婚しよう。カヌーをしながら毎日をたのしく暮らそうよ」

食道がんが再発すると、しおりは声を失うことを知った怪人は力が抜け、よろけた。

怪人「・・・行け、田中とどこへでも行くがよい。去り行くのだ」

しおり「愛する怪人、源内さま、私はあなたからもっともっと真実を教えてもらいたかった。

さようなら」

田中はしおりの肩を抱いて、サンポート広場をめざした。

怪人「しおり、愛しているよ。いつまでも愛しているよ」

滝上「怪人がしおりを追ってくるわ。ドクター田中を切り殺してやる、ふたり殺すも3人殺すも同じだと、刀を振り回して荒れ狂っているわ。

高松空港から急いで逃げて。遠くニュージーランド・テカポ湖の『世界の中心で、愛をさけぶ』のよ」

♪ 挿入歌『瞳をとじて』にわせて幕が閉じる ♪

終幕

ふたたび 2078 年

高松はアメリカ B29 の広島原爆投下の練習で、丸亀町アーケードドームを標的にしたピンポイント爆撃をした。

焼夷弾で焼け野原になった区域が、オールド高松である。

焼死者は龍王の聖地・紫雲山ふもとの、集合墓地にまつられている。

敗戦後の高松は順調に発展を続けたが、

新型コロナのあとは、あちこちで民堤の堤防決壊が続き、町はさびれて復興はままならずにいる。

オークションでエレキテルを手に入れた田中陽太郎は、しおりへの報告のため介護ロボットに付添われて紫雲山墓地をおとずれた。

庵治石でできた墓石には、田中しおり 68 才で死すときざまれている。

思い出にひたる田中陽太郎は、ふと墓の片隅に一輪の花が置かれていることに気づく。

怪人平賀源内がそなえた、赤いケシの花であった。

茎には怪人がかなわなかった、しおりへの婚約指輪がはめられていた。

完

【 詳しくは『源内コード』で検索 】